

Weekly Market Report

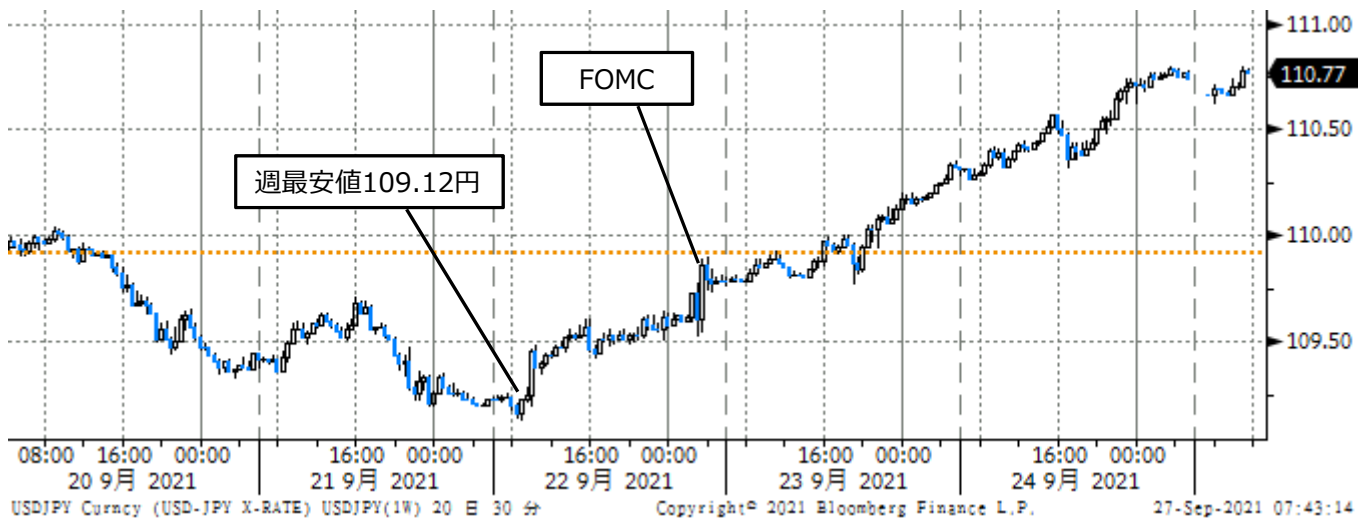
Sep.27.2021

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

株高・債券安の流れが続けば111円台を試す展開か。

USD/JPY (1週間の値動き)



コメント

(出所) Bloomberg

先週のドル円相場は、109円台前半～110円台後半のレンジで推移。週初109.90円台で寄り付いた後は、中国不動産大手の中国恒大集団の社債利払い遅延報道や、それによる世界的なリスク回避ムードから、米金利急低下（一時1.29%台まで低下）を受けて、ドル円は週央にかけて109円台前半まで低下（週最安値）。週後半は、中国恒大集団のデフォルト懸念後退や、ドットチャートの米利上げ予想者の増加、パウエルFRB議長によるタカ派的な発言、これらを受けた米金利の急上昇などが支援材料となり、110円台後半まで上昇して越週。

中国恒大問題は中国当局がコントロールをするとの楽観的な見方が出ており、リスク回避ムードは一服している。今週もこのまま株高・債券売りが続けば、ドル円は上昇基調を続ける展開となりそう。（市場営業部/辻本）

今週の経済指標（予定）

日付	イベント	予想
9/27(月)	(米国) 8月耐久財受注	0.7%
9/28(火)	(米国) 消費者信頼感指数	114.5
9/28(火)	(米国) パウエルFRB議長証言	-
9/30(木)	(米国) 失業保険申請件数	328 k
10/1(金)	(米国) ISM製造業景気指数	59.5

USD/JPY (5年間)



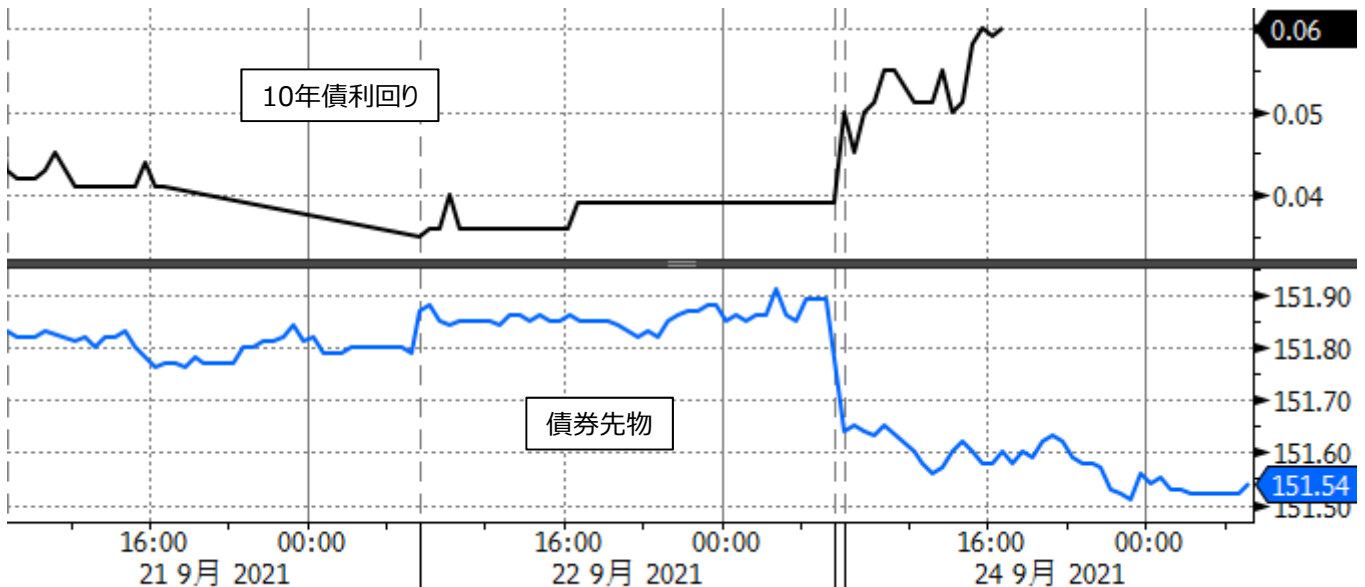
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
福永純一	109.70 - 111.70	株式市場やFRB要人発言を睨みながらドル円は上値余地を探る展開か。中国恒大集団のデフォルトリスクには要警戒。
三原大希	110.00 - 111.60	米当局要人の発言が多数予定されており、タカ派的発言が続けばドル買い地合いが続くと予想。

2. 円金利相場概況

FOMCを終えて円金利は米金利動向、総裁選に左右される展開か？

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）

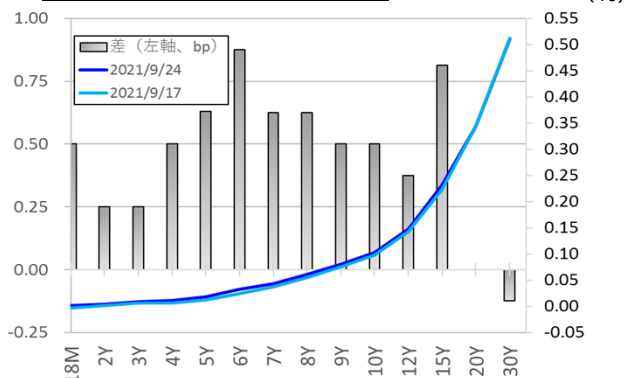


GJGB10 Index (日本国債10年) JGB.F 20 日 30 分 Copyright © 2021 Bloomberg Finance L.P. 27-Sep-2021 07:48:54 (出所) Bloomberg

コメント

先週の円金利市場はFOMC終了後、上昇基調で推移する展開。21日は中国大手不動産のデフォルト懸念からリスクオフムードが高まり、円債が買われて開始するも、買い一巡後はFOMC控え様子見ムードで横ばいに推移。22日は日銀決定会合で現行の長短金利操作及び量的緩和政策の継続が報じられ、相場への影響は限定的にとどまった。一方FOMCでは早期利上げの可能性、11月テーパリング着手の可能性が発表されたことから米金利は上昇。更に中国大手不動産のデフォルトリスクが後退したことから、休暇明けの24日の10年債利回りは0.05%台でもみ合いながら、0.06%台まで上昇し越週。今週は自民党総裁選が予定されている。また30日に緊急事態宣言解除が検討されており、選挙結果や宣言解除が株価に追い風となれば長期金利は上昇しやすい地合いが続くと予想。また今週はFRB要人の発言が多く予定され、タカ派的な発言が相次ぐ場合、米金利上昇による国内金利への影響にも注意が必要である。(市場営業部 三原)

金利スワップ変化（1週間）



5年円金利スワップ推移（5年間）



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
正村光太郎	0.035% - 0.07%	先週にFOMCと中国・恒大集団の利払い懸念を通過し、円金利は米金利の上昇基調に追従して上昇しやすい地合い。
小野口裕美子	0.05% - 0.08%	テーパリング開始観測による米金利上昇や本邦自民党総裁選による財政出動期待などから円債も需給は緩みやすい状況。

3. 今週のトピックス

ユーロ相場アップデート

ECBの金融緩和長期化が重石、感染再拡大も景気回復の兆しは持続。

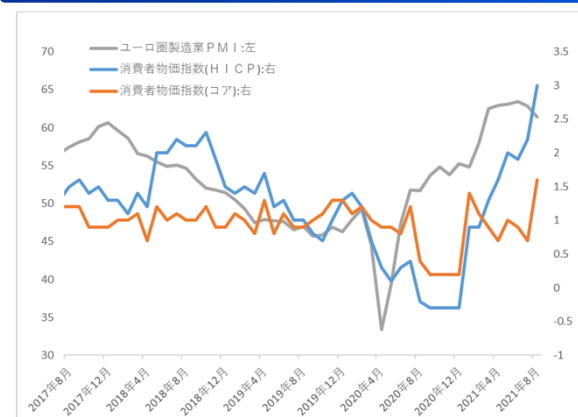
ECB金融政策

9月9日のECB理事会では、10～12月のPEPPの購入を前2四半期より「適度に低いペース」に減速させることを決定。なお、来年3月でPEPPは終了すると予想されるものの、低インフレを背景にAPP（拡大資産購入プログラム）による資産買い入れやマイナス金利政策は継続される公算大。一方、ラガルド総裁は、今回の決定は、テーパリングではなく危機対応政策の微調整であると強調。同時に公表された経済・物価見通しでは、21年の消費者物価指数がECBの目標を上回る2%超となる一方、22年以降は再び2%を下回る水準となるほか、コア消費者物価指数も、依然として緩やかな伸び。ユーロ圏の協約賃金の伸びが低位にとどまるなど賃金面からのインフレ圧力の高まりがみられないなか、当面はECBの金融緩和長期化が意識されやすくなる見込み。足許では、タカ派的な発言が相次いだことからユーロ圏の金利が上昇【図1】。なお、上昇の主な要因は景気回復期待が主因であることから、ECBは足許の金利上昇を容認する見込み。

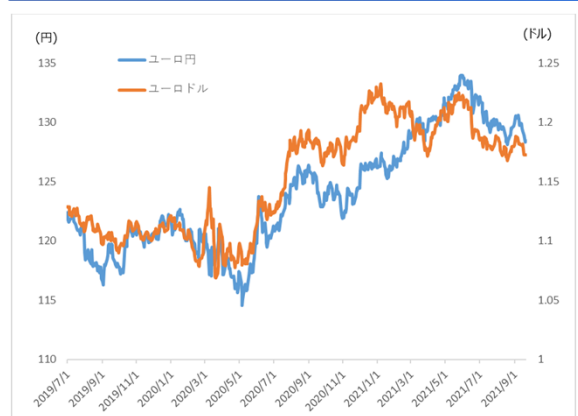
【図1】ユーロ主要国10年債利回り



【図2】消費者物価指数と総合PMI



【図3】ユーロ相場（対ドル、対円）



景気は順調に回復、設備投資意欲も旺盛

ユーロ圏の8月の製造業PMIは61.4と前月から低下したものの、好不況の判断の分かれ目となる「50」を大きく上回る水準。供給制約が続くなかでも、受注は好調に推移するなか、ユーロ圏製造業の設備稼働率は82.9%と、長期平均を上回る高水準に。設備稼働率の上昇は製造業の生産能力増強のための設備投資を後押し。実際、機械投資の先行指標である資本財受注は増加基調であり、足許ではコロナ禍前の水準を回復。機械関連を中心に設備投資の拡大が続く公算大。

今後のユーロ相場展開

対円では、8月中旬に、米中の景気減速懸念やアフガニスタン情勢の深刻化を受けてリスク回避の円買いが優勢となり、128円台前半へ下落。月末にかけては、ユーロ圏CPIの上振れなどを背景に、129円台後半へユーロが上昇。今後の相場展開は、対円においてはユーロ圏における新型コロナのワクチン接種の進展や景気回復ペースが日本を上回るなか、ユーロ強含みの地合いが続く見通し。もっとも、ECBによるマイナス金利の長期化が予想されるため、一方的なユーロ高進行には至らない見込み。対ドルにおいてはECBの政策目標の達成にはFRB以上に時間を要するとみられるため、米欧の金融政策のスタンスの違いが意識されることで、ユーロ弱含み地合いが続く見通し。

(市場営業部/治久丸)

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会